

V 基準ごとの自己評価

『理念と目標』

1 理念と目標

基準 1 - 1

各大学独自の工夫により、医療人としての薬剤師に必要な学識及びその応用能力並びに薬剤師としての倫理観と使命感を身につけるための教育・研究の理念と目標が設定され、公表されていること。

【観点 1 - 1 - 1】理念と目標が、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズ、学生のニーズを適確に反映したものとなっていること。

【観点 1 - 1 - 2】理念と目標が、教職員及び学生に周知・理解され、かつ広く社会に公表されていること。

【観点 1 - 1 - 3】資格試験合格のみを目指した教育に偏重せず、卒業研究等を通じて深い学識及びその応用能力等を身につけるための取組が行われていること。

[現状]

武蔵野大学学則第1章第2条に、薬学部は「仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目的とする」と定め、薬学科は「6年一貫教育の趣旨を生かし、教養教育から基礎薬学教育、医療薬学教育へと系統的な教育を行うことで、医療人として高い倫理観と高度な専門知識を兼ね備えた実践力のある薬剤師の育成を目的とする」と謳っている。この武蔵野大学薬学部及び薬学科の理念・目的・目標に基づき、医療人としてより高度な専門知識と実践力を持った薬剤師の育成に加え、仏教精神を基礎にしたヒューマニズム教育を行うことで、慈悲の心を持って患者や生活者をケアできる人材を育成することは、現在の社会の要請であり、本学薬学部の使命と考える。

薬学部・薬学科の理念・目的・目標は、このように学則に掲げられる上に、薬学部履修要覧(資料5)、武蔵野大学ホームページ(資料6)、及び武蔵野大学・大学案内(資料7)等で学内外に公表され、学生、教職員に周知・理解されている。入学式、卒業式などの諸行事においては、理事長、学院長、学長、学部長

から常に本学の理念・目的・目標が学生、教職員に語りかけられ、また、教職員には、ブランド展開プロジェクト(資料 8)の検証を通して周知されている。

資格試験合格のみを目指した教育に偏重せず、本学薬学部・薬学科の理念・目的・目標を達成するために、薬学教育モデル・コアカリキュラムに則ったカリキュラムに加えて、薬剤師の倫理観と使命感を身につけるための「ヒューマニズムについて学ぶ」の科目群、基本的技能の修得を目指す 15 の必修科目「基礎科目実習」(各科目 12 日間)、183 コマに及ぶ「実務実習事前学習」、科学的根拠に基づいて問題を解決する能力を養う「卒業研究」、及び「多様な進路の開発」のための香粧薬学系科目と製薬産業系科目、これ等に重点をおいたカリキュラム編成は本学薬学部の特徴と言える。

[点検・評価]

1. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの「ヒューマニズムについて学ぶ」で述べられる一般目標は、本学薬学部の理念・目的・目標と良く合致する。薬剤師としての倫理観と使命感を身につけるために、1 年次から 4 年次にわたり、「仏教概説 1、2」「自己の探求」「コミュニケーションスキル」「生命倫理・医療倫理学」「死生学」「看護学・ターミナルケア」「医療心理学」等多くの科目を配置したことは評価できる。また、「薬理学 3(副作用学)」で薬害被害者の声を直接聞く授業を行っている(表 1-1-1)。

2. 2 年次後期から 4 年次前期にかけて、15 科目の「基礎科目実習」(各科目 12 日間)を順次実施し、学生の講義で学んだ知識の理解度を増すと共に、基本的技能の修得を目指している。各実習はその実習に関わる科目の講義の終了後に行われるように配慮してある(表 1-1-1)。

3. 「実務実習を行う薬学生の資質の確認」に備えて、4 年次の実務実習事前学習では学部内に設置された臨床薬学センター及び臨床薬剤学研究室を中心に、「臨床調剤学 1、2」「臨床薬学 1、2」「臨床薬学演習 1、2」「基礎調剤実習」及び「事前実習」を開講して、Problem Based Learning(PBL)や Small Group

表1-1-1 薬学科 6年制 開講科目一覧

授業科目の区分	1年次				2年次				3年次				4年次				5年次				6年次				修業区分		卒業単位数									
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		単位											
	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		必修	選択							
理学科目	仏教概論1 (自己をみつめる)	2	仏教概論2 (仏教と薬学)	2																									4	0	4					
健康体育科目	体育実習1<通年>				体育実習2<集中>																															
コミュニケーション科目	英語1<通年>				英語3<通年>				英語4<通年>				英語5	1	英語6	1	英語7	1																		
共通科目	コンピュータ活用1 (情報倫理・メディア表現)	2	コンピュータ活用2 (統計基礎・数値表現)	2	中国語1 フランス語1	2	中国語2 フランス語2	2	中国語3 フランス語3 コミュニケーションスキル	2	コンピュータ活用3 (医薬・薬学情報検索)	2	コンピュータ活用4 (医療統計・生物学的検定法)	2																						
セルフディベロップメント科目	社会の仕組みを学ぶ ①法学(日本国憲法)	2	人のあり方を学ぶ ①美学 ②心理学	2	美を学ぶ ①美学 ②色彩学	2					人の生死を学ぶ ①生命倫理・医療倫理学 ②死生学	2	人の生死を学ぶ ①看護学・ターミナルケア ②医療心理学	2																						
ノンチャルスタディ科目	自己の探求 <集中>	1						キャリアデザイン	2																											
薬学基礎科目	薬学概論 香粧品概論	2									薬学総合演習1<通年>				4	薬学総合演習2<通年であき時間活用>				4	卒業研究<2年制>															
物理系薬学			医薬品分析化学1	2	医薬品分析化学2	2	医薬品分析化学実習 医薬品物理化学 放射性医薬品学	1 1 2																												
化学系薬学			医薬品化学1 医薬品合成化学1	2 2	医薬品化学2 医薬品合成化学2 生薬化学1	2 2 2	医薬品化学・ 合成化学実習 生薬化学2	1 2	生薬化学実習	1																										
生物系薬学			生理学1 解剖学1 解剖学2 生化学1	2 2 2 2	生理学2 生化学2 微生物医薬品学1	2 2 2	微生物医薬品学2	2	生理学・解剖学実習 生化学実習	1 1	分子・細胞生物学 微生物・医薬品学実習	2 1																								
衛生系薬学					薬理化学	2			食品衛生学 環境衛生学2	2 2	環境衛生学1 環境衛生学2	2 2	公衆衛生学 環境衛生学実習	2 1																						
薬理系薬学			薬理学1 薬理学2 物理薬理学	2 2 2	薬理学1 薬理学2 物理薬理学	2 2 2	薬理学3(創作用学) 病態学2 製剤学 薬物治療学1 薬物動態学1 薬物療法学1 臨床薬理学1 製剤学実習 薬理学実習	2 2 2 2 2 2 1 1	実薬性学実習 医薬品開発学 臨床薬学1(処方分析) 薬物治療学3 臨床調剤学1 臨床調剤学2 臨床薬理学2 生薬療法学実習 薬物動態学実習	1 2 2 2 2 2 1 1	臨床薬学2(産科検診・カンファレンス) <集中> 保険薬局実習<1年間で11週間> 病院薬局実習<1年間で11週間>	2 12 12	医療福祉学 製剤学 一般用医薬品学 医薬品情報学 臨床薬学演習1 臨床薬学演習2 事前実習	2 2 1 2 2 4																						
法規・制度									薬事行政(制度) 規格法規	2																										
香粧品系薬科目 (再掲)	(香粧品概論)	(2.0)			香粧品学1 (皮膚健康科学) *元は香粧品4	2			香粧品学2 (化粧品社会学)	2	香粧品学3 (化粧品原材料・製造学) *元は香粧品1	2	香粧品学4(化粧品評価学) *元は香粧品3	2																						
製薬産業系科目 (再掲)											(医薬品開発学)	(2.0)	(薬業経済学)	(2.0)	製薬産業論	2																				
自由選択																																				
学年・学期別単位数計	15	14	31	2	22	4	17	7	22	4	22	6	20	9	22	5	0	3	30	0	1	13	8	0	210	76	227									

Discussion(SGD)等の少人数参加型事前学習を含め、183コマの授業を実施している(資料9)。

4. 薬剤師の資格を持ち、なおかつ多様な進路への開拓を図るため、「キャリアデザイン」や「インターンシップ」に加え、化粧品薬学系科目と製薬産業系科目を用意し、学生各人の興味、将来に合わせて特徴ある科目を選択できるようにした。今年度、選択科目である化粧品薬学系科目として2～4年次で開講された「化粧品学1～4」、4科目全てで学生の受講率が66%以上であったことは評価できる(表1-1-2)。

表1-1-2 化粧品学の学生受講率

科目名	単位	配当学年	学生数(名)	履修者数(名)	受講率(%)
化粧品学1(皮膚健康科学)	2	2年次後期	143	138	97
化粧品学2(化粧品社会学)	2	3年次後期	143	99	69
化粧品学3(化粧品原材料・製造学)	2	4年次前期	128	122	95
化粧品学4(化粧品評価学)	2	4年次後期	128	84	66

[改善計画]

5年次の実務実習を行わない時期に、化粧品薬学系科目や製薬産業系科目の新たな設置と、総合大学の利点を生かして、文系学部科目の受講を可能にする一環として、公務員試験に関わる文系授業も薬学部学生が受講できるように計画している。

また、本学では全学的に次年度から、前期、後期共に1教科16コマの授業回数(90分授業、1回の定期試験を含む)の確保を決定した。より充実した授業が期待される。

基準 1 - 2

理念と目標に合致した教育が具体的に行われていること。

【観点 1 - 2 - 1】 目標の達成度が、学生の学業成績及び在籍状況並びに卒業者の進路及び活動状況、その他必要な事項を総合的に勘案して判断されていること。

[現状]

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目指す本学薬学部の理念・目的・目標は、上述のように、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「ヒューマニズムについて学ぶ」で述べられる一般目標と良く合致する。それ故に倫理観と使命感を身につけ、医療人としてより高度な専門知識と実践力を持つ薬剤師の育成に取り組む教育体制の確立に努めている。

薬学部の教育課程の編成方針は「共通科目」と「学科科目」に大別される。

「共通科目」は「建学科目」「健康体育科目」「コミュニケーション科目」「セルフディベロップメント科目」及び「ソーシャルスタディ科目」からなり、さまざまな背景を持った患者や生活者と接するための人間性を養う科目、学修のための基礎的な技術を身につけるための科目、学科科目を学修するための基礎的知識を学ぶ科目が配置されている。

「学科科目」におけるカリキュラムは「薬学基幹科目」「物理系薬学」「化学系薬学」「生物系薬学」「衛生系薬学」「医療系薬学」「法規・制度」及び「香粧薬学系科目」と「製薬産業系科目」に分類される。知識偏重ではなく、技能教育、態度教育を組み込んだ薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿って作成されたカリキュラムで、まず基礎系薬学科目を履修した後に衛生系薬学、医療系薬学科目を履修するというように、学年進行に伴い履修分野が基礎系から医療系へシフトしていくように各分野・各科目が配置されており、互いに関連する科目が有機的に連動した形態で履修できるように配慮した。また、充実した実務実

習を行うために、薬学部内に臨床薬学センターを設置し4年次の実務実習事前学習から5年次の実務実習の教育・指導にあたる体制を構築した(資料5、9)。

このように薬学教育をめぐる社会環境の変化に対応したカリキュラム編成を行い、社会のニーズに応えられる人材の育成に努めている。

[点検・評価]

1. 本学薬学部は平成16年度に設置され、これまでに4年制学生を2度世に送り出している。薬剤師として活躍するためには国家試験に合格することは必須であり、本学の新卒者の合格率は平成19年度89.32%、20年度92.39%であった(表1-2-1)。この合格率は、私立薬科大学の全国平均合格率85.67%と比べて遜色なく、新設間もない本学薬部部の薬剤師養成教育の方向性は順調な第一歩を踏み出したと言える。

2. 4年制2回の卒業生の就職状況については、希望者の殆んど全員が就職している。特に製薬企業と治験関連企業へは、平成19年度：就職者80名中25名(31%)、平成20年度：就職者55名中18名(33%)と平成19年度私立薬科大学平均値13%より高い(表1-2-2)。また、大学院への進学は、本学薬部部の大学院が博士後期課程であることから全て他大学大学院への進学にもかかわらず、平成19年度：卒業生103名中18名(17%)、平成20年度：卒業生92名中29名(32%)と高率になっている(表1-2-3、平成19年度私立薬科大学平均値21%)。

これらの結果は、バランスのとれた薬学教育と薬学研究に基づき、「多様な薬学関連分野で活躍できる創造力豊かな人材の育成」を目標のひとつとする本学薬部部の意図するところであり、今後の6年制学生の教育、研究にも生かしたい。

3. 本学薬部部では教育の充実を目的に、学年制をとっている。6年制学生の平成20年度留年者・休学者・退学者数の合計は、1年次：144名中6名(4.2%)、2年次：146名中6名(4.1%)、3年次：131名中3名(2.3%)となっている。留年者は学習へのひ

たむきさに欠ける場合が多く、経済的な理由からのアルバイトのし過ぎも一因となる。退学理由としては、薬学領域への不適合が多く、学内他学部あるいは他大学への進路変更が主である。また、休学者の多くは、病気によるものであり、精神面での問題に基づく場合も見受けられる。

[改善計画]

本学薬学部では、1年次から4年次前期まではアドバイザー制をとり、1クラス35名前後を1教授が受け持つ。4年次後期からは研究室配属となり、1研究室に7～8名の学生が配属される。留年者・休学者・退学者の合計数はさほど多くはないと判断されるが、学生と担当教員の関係をより密にして、担当教員が平素から学生の学習及び生活状況を把握し適切な助言を与えることで、これらの学生の数を減らしたい。また、本学薬学部では基礎薬学教育や卒後教育等をサポートする部門として「薬学教育支援センター」を設置しているが、今後は成績不振者に対する学力強化支援なども本センターで行っていきたい。

表1-2-1 4年制薬学部 国家試験合格率

年 度	国家試験の名称	受験者数(名)		合格者数(名)	合格率 (%)
		(A)		(B)	(B) / (A) × 100
平成19年度	第93回薬剤師国家試験	総数	103	92	89.32
		新卒	103	92	89.32
平成20年度	第94回薬剤師国家試験	総数	110	97	88.18
		新卒	92	85	92.39

表1-2-2 平成19年度及び平成20年度卒業生就職先

就 職 先	平成19年度		平成20年度		私立薬科大学平均 ※ 平成20年3月卒業 (%)
	(名)	(%)	(名)	(%)	
病 院	8	(10.0)	13	(23.6)	(22)
製 薬 企 業	18	(22.5)	14	(25.5)	(11)
治験関連企業	7	(8.8)	4	(7.3)	(2)
調 剤 薬 局	34	(42.5)	14	(25.5)	(56)
ドラッグストア	11	(13.8)	8	(14.5)	
公 務 員	1	(1.3)	1	(1.8)	(3)
そ の 他	1	(1.3)	1	(1.8)	(6)
計	80	(100.0)	55	(100.0)	(100)

※ 日本私立薬科大学協会だより (第72号) 平成20年11月)

表1-2-3 平成19年度及び平成20年度卒業生進路

進 路 先	平成19年度		平成20年度		私立薬科大学平均 ※ (平成20年3月卒業) (%)
	(名) / (%)	(名) / (%)	(名) / (%)	(名) / (%)	
就 職	80	55	(77.7)	(59.8)	(69)
	(77.7)	(59.8)			
大 学 院	18	29	(17.5)	(31.5)	(21)
	(17.5)	(31.5)			
病院研修生	4	7	(3.9)	(7.6)	(2)
	(3.9)	(7.6)			
そ の 他	1	1	(1.0)	(1.1)	(8)
	(1.0)	(1.1)			
計	103	92	(100.0)	(100.0)	(100)
	(100.0)	(100.0)			

※ 日本薬科大学協会だより (第72) 平成20年11月)